



あいさつされる後藤宗昭竹田市長

平成七年の竹田高校関東同窓会の第九回総会と懇親会は、去る七月八日都内でも格調の高い新宿のホテルセンチュリーハイアットで開かれた。

平成七年・同窓会総会に臨んで 伊東会長再選される

総会特集

第九回総会・懇親会

総会の部

- 一、開会のことば
 - 二、会長あいさつ
 - 三、会務会計報告
 - 四、監査報告
 - 五、会則の改正
 - 六、来賓の祝辞
 - 七、閉会のことば
- 右記のプログラムで、来賓の後藤竹田市長のごあいさつなどもあり、佐藤幹事長の司会で原案通り、議題をスムーズに終了し、早速懇親会に移った。
- 郷里から、この会のためにわざわざ上京された田北同窓会長、尾西校長から、竹田高校の現況説明があり、大学進学状況やクラブ活動など在校生の詳しい報告がなされた。又特に、平成九



大分県立竹田高等学校
関東同窓会
報

第12号

発行者・会長 伊東七五三八
編集者・委員長 神田 清
発行所・関東同窓会事務局
〒100 東京都千代田区永田町
2-4-11フレンドビル7F
電話 03(5251)2730
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷株式会社



伊東七五三八会長

関東同窓会の会長は、今期も私が続投することになりました。

会長再任にあたって

会長 伊東 七五三八
(昭20年卒)

会員の中には数多の人材が居られるのに、なぜ私が一抹の不安を感じなくもありません。

関東同窓会も発足以来、やがて十年を迎えることとなります。その間、組織の面でも活動の面でも、年々充実発展を続け、今日定着したように思っております。

関東同窓会の特長は、五つの委員会(総務、企画、組織、広



白石哲也さんと阿部美恵子さん

年に創立百周年を迎えるための記念事業資金に協力してくれるようにとの強い要望があった。アトラクションは、竹田出身のピアノスト白石哲也さんとNHK歌のお姉さん阿部美恵子さんのさわやかコンビで会場を明るいまうどに包んで懇親会に華をそえてくれた。

昭和四年卒業の大先輩から平成

成五年卒業の若々しい人達まで一九八名、竹田で過ごした時間に差はあるものの同窓会と云う強い糸に結ばれて、和気あいあいのなごやかな雰囲気うちに、あつと云う間に予定の時間は過ぎて行った。こうして三時間余

参加した人々は一時の楽しい時間をもち得た喜びの表情を残しながらホテルを後にしていた。今年の当番幹事を務めた二九年、三九年卒の方々お疲れ様でした。感謝多。

(広報委員 昭28年卒 佐藤毅士)



旧交を暖め、なごやかに談笑する会場

報、名簿)があり、各委員の方々のためまざる努力と、献身的な奉仕により、常時、何らかの形で動いているということであり、もう一つは、総会後の懇親会の運営が当番学年(六〇歳と五〇歳)幹事によって行われ、その学年の特徴を生かした独自の斬新な企画により、毎年新鮮な雰囲気の中で会の運営ができていくことでもあります。

役員会が軸になり、この両輪が動いている限り、関東同窓会は留まることなく進み続けるであろうと思えます。

ところで、現在の会員の名簿掲載人数は一六六六人であり、

それが竹田中学・女学校、高等学校卒業生の関東在住者の半数にも達していないのではないかと気になっております。学年のクラス会の時に名簿が作られると思いますが、その一部をぜひ名簿委員長宛にお送り下さるようお願いいたします。また、個人的にも転勤や転居の御通知を名簿委員長宛にもぜひ一通お送りください。

会の費用は維持会費によって賄っておりますが、現在の維持会員数は四二四名(平七・九・一現在)です。収入は会の運営の基礎でありますので、できるだけ多くの方の御協力をお願いいたします。

関東同窓会の発展充実に伴い、心はどうしても母校竹田高校に走ります。私どもは戦時中の厳しい時代に、情報の乏しい中で先輩の足跡を求め、先輩を指針として勉強して来ました。心の躍動を覚えながら先輩の話を聞いた記憶がいくつかります。経済も情報も豊かな今の竹田高校生は何を考え、どんな夢を抱いて勉強しているのでしょうか。

私は今では竹田高校在校生に接する機会はありません。厚い壁で隔てられているように感じられてなりません。叫んでみても声は届かない。はるか遠くに竹田高校生がいる、そんな感じがしています。しかし、母校竹田高校の発展向上を祈らず

にはいられません。そのために、関東同窓会として、また個人として何かできることはないかと考え続けております。



会務報告

幹事長 佐藤 映之

平成六年度(平成六年四月一日〜七年三月三十一日)の会務・会計報告を次の通り報告します。

- ★平成六年四月十五日(金) 幹事会 学士会館 出席三十一名
- 第八回総会、懇親会について
- 維持会員増強について
- 各委員会活動報告
- 新入会員(学生)の招待について
- 六月三日(金) 役員会 学士会館 出席七名
- 総会に向けての準備状況確認
- 総会における役員役割分担
- 広報紙「臥牛」次号発行について
- 六月二十五日(出) 第八回総会、懇親会 於新高輪プリンスホテルパミール館 出席一七九名
- 今回初めて学生十一名招待
- イベント、朝地から神楽保存会を呼び岩戸神楽を舞う

- 出席者に郷里の銘菓プレゼント
- 郷土産品即売コーナー設置
- 七月一日(金) 役員会 学士会館 出席七名
- 第八回総会、懇親会の結果掌握
- 本校同窓会との交流について
- 八月六日(土) 役員会 学士会館 出席四名
- 名簿委員会発足の件
- 各種委員長の役員としての会則改正の件
- 竹田高校本校同窓会へ関東からの参加について

- 九月二日(金) 役員会 学士会館 出席五名
- 名簿委員長及び委員選出、委員長山口雄三(昭29年卒)
- 委員吉岡龍雄(昭39年卒)
- 広報委員、久保博紀(昭29年卒)加入
- 本校同窓会総会出席者決定、高宮相談役、伊東会長、佐藤幹事長
- 九月十六日(金) 反省会(第八

- 回総会、懇親会) 学士会館 出席二十九名
- イベントの岩戸神楽好評
- 新入会員(学生)の招待は非常に好評。次回以降も継続。
- 会計報告
- 維持会費・会員の状況報告、懇親会における来賓席の再考を
- 十月三十日(日) 本校同窓会総会 竹田市内ホテル岩城屋
- 関東同窓会から伊東会長、佐藤幹事長出席
- 十月三十一日(月) 竹田高校教育懇親会 本校校長室
- 出席(本校)尾西校長、田北同窓会長、倉原副会長、幹部教職員(関東)高宮相談役、伊東会長、佐藤幹事長

- 十一月二十五日(金) 幹事会 学士会館 出席三十名
- 本校同窓会に出席しての状況報告
- 第八回総会、懇親会の会計報告
- 第九回総会、懇親会の会

場確保について ○会則の一部改正の件

★平成七年二月三日(金) 役員会 学士会館 出席七名
- 広報委員長選任の件
- 会則一部改正最終案について
- 三月三日(金) 役員会 学士会館 出席五名
- 春の定例幹事会招集の件
- 役員一部交替について
- 広報紙「臥牛」十二号発行延期の件

委員会報告

総務委員会について

総務委員長 渡辺 真一

総務委員会の仕事は端的に申しますと会計担当ということであり、それがそれに関連して維持会員の整理を行なうことになっております。さて現在会の運営

会計報告

1. 収入の部	
① 維持会費	2,091,000円
② 総会会費	1,226,000円
③ 広告料	120,000円
④ 総会祝金	60,000円
⑤ 受取利息他	5,327円
⑥ 前期繰越金	2,096,388円
合計	5,598,715円
2. 支出の部	
① 第8回総会費	2,469,078円
② 幹事会等会議費	398,059円
③ 会報費	446,756円
④ 通信費等	326,833円
⑤ 雑費	38,787円
合計	3,679,513円
次期繰越金	1,919,202円
3. 繰越金内訳	
① 定期預金	1,000,000円
② 普通預金	751,133円
③ 現金	168,069円
合計	1,919,202円

上記の通り報告します。

平成7年3月31日

総務委員長 渡辺 真一 ㊟

監査報告書

監査の結果この収支計算書は正確であることを認めます。

平成7年6月14日

監事 吉田 忠 ㊟

留高 照 幸 ㊟

に必要な資金は維持会費(年一口五千円)によると定められております。したがって、全会員を対象とした年会費は徴収しておりません。したがって会の収入は維持会員による維持会費と総会の出席者に負担をお願いする会費の二本建が基本の収入となっております。別掲の第八回総会の収支計算で明らかかなように維持会費は総収入の六十パーセントを占めており会の運営を大きく支えております。現在維持会費は四二四名(五一二口)の方にご協力を願っておりますが、会の発展の礎は一人でも多くの会員に維持会員としてのご協力をいただくことと認識しておりますのでよろしくお願い申し上げます。

企画部便り

企画委員長 工藤 敏暢

関東同窓会第九回総会並に懇親会が七月八日センチュリーハイアットで行われ参加一九八名の皆さんの御協力を得て盛会裏に終了したことは、同慶の至りであります。特に事務局並に当番幹事の献身的な活動に改めて謝意を表します。さて第十回は平成八年六月十五日京王プラザにて開催することが決定しております。既に当番幹事(30年・40年卒)による準備活動が始められております。今年度の反省(9/1反省会)を踏まえて節目の第

十回を意義あるものにしたたいと願います。同時に同窓の全員が本会を更に発展させようとの意気ごみを期待するものであります。

会員が主役

組織委員長 川合 文彦

粟生利信前委員長のご指名を受けこの度委員長になりました。三十年卒、竹田久戸谷出身です。この機会に誌上をお借りして委員をご紹介します。

高山 英一(昭17卒) 粟生誠之助(昭25卒)
鐘ヶ江碩則(昭25卒) 牧 文男(昭27卒)
平手 肇(昭35卒) 佐藤 隆尋(昭37卒)
土居三代子(昭38卒) 後藤 猛士(昭41卒)
甲斐 文夫(昭43卒) 小代 基昭(昭45卒)
後藤 和典(昭47卒) 佐藤 治彦(昭55卒)
の皆さんです。よろしく願います。

平成七年は二十九年卒迄四八%、三十九年卒迄三九%、四十年卒以降一三%、女性は三八%の出席比率でした。若い世代の人達は人脈づくりになど目的をもって会員になり出席してはどうでしょうか。同窓会の主役はあなたです。

臥牛を会員相互の 触れ合い・情報の 泉に育てよう!!

広報委員長 神田 清

足立五郎前委員長に引き継ぎ、この度広報委員長を拝命致

しました。二十六年卒、三重町出身です。新広報委員をご紹介します。格段のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

一、新広報委員

佐藤 毅士(昭28卒) 久保 博紀(昭29卒)
萩原 忠(昭36卒) 菅 豊広(昭38卒)
田部 修士(昭42卒) 長松 周二(昭43卒)
木村 明美(昭43卒) 三尾まゆみ(昭54卒)

二、臥牛の発行

・年二回(*五月*十一月)
・発行部数 一回 約二千部
・配付対象
・名簿登録者全員、母校他

お知らせとお願い

名簿委員長 山口雄三
関東同窓会会員名簿を改定



(平成7年6月) 次記の通り配布しました。

①維持会員(424名) 7・9・1現在)

②本年度総会参加者全員宛に郵送・配付を完了しました。

※お願い!!

名簿中の誤字・脱字・記載もれ等にお気付の方は、名簿委員長又は事務局(渡辺五月)までご連絡下さい。

竹田高等学校関東同窓会役員名簿

(平成7年5月12日現在)

相談役	高宮 昇(昭8年卒)	得丸 大典(昭20年卒)	副幹事長	西 誠(昭30年卒)
後藤 鉄石(昭10年卒)	伊東 七五三八(昭20年卒)	副会長	近藤 秋男(昭23年卒)	総務委員長
渡辺 正治(昭10年卒)	栗生 利信(昭23年卒)	顧問	矢嶋 三義(昭4年卒)	企画委員長
	中川 清次(昭4年卒)		加藤 郷一(昭5年卒)	工藤 敏暢(昭29年卒)
	田部 幸男(昭6年卒)		工藤 幸男(昭6年卒)	組織委員長
	里見 菊雄(昭26年卒)		田部 健(昭11年卒)	川合 文彦(昭30年卒)
	池内 勇吉(昭23年卒)		里見 雄(昭26年卒)	広報委員長
			池内 吉(昭23年卒)	神田 清(昭26年卒)
			佐藤 映之(昭28年卒)	名簿委員長
				山口 雄三(昭29年卒)

弁護士 伊東七五三八

(昭和20年卒)

事務所 〒104 中央区築地2-7-12
15山京ビル205

☎ 03-3543-8747

自宅 〒222 横浜市港北区大豆戸町11

☎ 045-531-7785

母校同窓会総会に出席して

久方ぶりの母校訪問 母校教諭陣との懇談

相談役 高宮 昇(昭8年卒)

すこし旧い話になりますが、

昨秋十月、伊東七五三八会長と佐藤映之幹事長のお伴を仰せつかって、ご一緒に竹田の母校を訪問してきました。その目的は、母校同窓会総会に出席し、首脳と母校の諸先生がたとの、母校発展のための率直かつ建設的な意見交換ということでした。会員の皆さんの熱意と努力で最近とみにその内容を充実させてきた関東同窓会の意気込みと、生徒の成長に無限の夢を託しておられる母校の先生方の真摯な姿勢が、この未来志向の計画を実現させたのでしよう。

その前半は校長室で、後半は職員室で、併せて三時間ばかりの会談でしたが、校長室では尾西校長をはじめ学級乃至学科担任の先生たちから、学業、運動、文化活動など各方面に亘つての懇切な状況説明があり、私たちは母校がそれぞれの領域でよく健闘していることを十分認識することができました。また過疎化が進み高齢化が激しい竹田地方で、活力ある教育活動を展開してゆくことの困難さにも深い理解と同情を持つことができた。

した。

そのあと私たちは二階の職員室に案内されました。広い部屋のあちこちの自席で休み時間中の先生が待機しておられました。これらの先生方に向かって伊東会長、佐藤幹事長はともどもに自己紹介の後、自分たちがいかに母校を愛し郷土を懐かしく思っているか、そして関東同窓会としても母校や生徒諸君のお役に立つことがあればどんな努力もしてみたい、遠慮なく聞かせて欲しい、と情熱をこめて語りかけておられ、先生がたも眼を輝かせて聞いて下さっていたのが印象的でした。

紙幅に限りがあつて詳細を書きつくせませんが、経済的に豊かになり、個人の主体性や独立性が強く尊重される時代になつても、教師と生徒との相互関係は、素朴な愛情と信頼なくしては成立しないとの信念で生徒に對しては接しているとの、ある先生のお話には心底からの共感を禁じえませんでしたし、修学旅行で上京した生徒に希望があるなら、官庁街、大学、ビジネス・センターなどへの案内は引

会員特別寄稿

移情櫻樹碑

相談役

渡辺 正治(昭10年卒)

郷里・緒方町草深野の生家の近くに、江戸時代中頃に立てられた古碑がある。正面の上方に家の紋と同じ「丸に二の字」が刻まれて居り、幼い頃祖父から御先祖様の事が書いてある大切な石碑であると教えられた。

その場所は家の前を通る石畳の往還(昔の幹線道路)が古畑から原尻に下る左側の位置である。その後倒れて落ち葉に埋まって居ると聞いて気掛かりであった。

併し平成元年秋、久方振りに帰省して訪ねて見ると、現地に再建されて居た。横倒しになつて長年を経過した為、一部は判読不明の所もあったが、二百余年を経過したにも拘らず割りにしっかりして居た。

この石碑は天明六年(一七八

受けてもいいたの伊東会長の意欲的な応答には、私までが感激してしまいました。とにかく百年の歴史と傳統に培われた母校は、来世紀へ向かつての人材の宝庫です。母校と同窓会との渾然一体性を、あらためて心に刻



みながら、私たちは母校の発展と、親愛なる生徒諸君の未来への雄飛を祈りつつ、思い出の学舎を後にしたのでした。竹田の秋空は底抜けに高く澄んでいました。(一九九五・八・二〇)

六)建設されたもので、幅約三五榎角・高さ二米余の尖頭四面体であり、南向きの正面に「移情櫻樹碑」と草書し、他の三面に九百余の文字が刻まれて居る。この場所は昔から茶屋場と呼ばれ、中川家の藩主が遊行の折、休憩し献茶した所と伝えられて居る。

『移情櫻樹碑』情を移す桜樹の碑とは、懐かしい桜の木を記念する碑と言う事であろう。

以下縁家の高野好古先生(大正十卒)の解説文を参考にして、碑文を現代用語に翻訳してみた。
以下本文の翻訳……
(次号につづく)

祖母山麓秘境の湧水

竹田の名水

製造元 竹田名水観光有限会社
本社工場：大分県竹田市大字門田8番地
営業所：大分県竹田市大字竹田町583番地
☎ 0974-63-0531

大分県下一古い和菓子の暖簾

元祖 三笠野
竹田銘菓
創業文化元年
旧岡藩御用達
御菓子司
但馬屋老舗
竹田市上町
TEL0974(63)1811
茶房 たじま屋
茶房 だんだん

先輩を訪ねて

お客様

黒川 正身 様

令室恵子様同席

平成七年八月十九日

黒川様御自宅

とき
ところ

聞き手

後藤 鉄石(相談役)

神田 清

記録者

三尾 まゆみ

後藤 黒川さんは竹田の代官町にある、あの黒川病院の方でね、先祖は岡藩の代々御典医で、明治以後もずっと医者の家系です。

お祖父様の黒川文鉄氏は、明治10年西南戦争の戦禍が竹田に及んだ際、官軍の戦傷者の救護に当たられたことは有名で、気骨のある方でした。正身さんは夭折した私の兄の大親友で、私が東大に入学して間もなく命の危ない病に冒された時、親友の弟だというだけで助けて頂いた命の恩人なのです。その時お父君の健士さんが仰った言葉は、今も忘れません。「お前は私達に恩返しなど考える必要はない。後から来る者の為に何かしてやれ」



84歳、お元気な黒川博士

ごかったです。夏休みに毎日がり版で作った代数の宿題を30〜40問出され、これを毎日解いたのを今も懐かしく思い出します。その他の先生方も親身になって指導してくれましたが、

後になつてよく判る大きな言葉です。

神田 お生まれは竹田ですか。

黒川 いえ、その頃祖父の文哲が健在で、父は京大を出て大阪で開業していた為そこで生まれました。ところが私が11ヶ月の時母が腸チフスで亡くなり、父は樺太に単身赴任になったので私は竹田に預けられ、以来乳母が育ててくれました。幼稚園、小学校、中学校まで竹田で、佐賀高校(現佐賀大学)に進学しました。

神田 中学の頃で、思い出に残っていることはございますか。

黒川 その頃校長をなさっていた先生が大変教育熱心な方で、数学をみっちりとし

ごかったです。夏休みに毎日がり版で作った代数の宿題を30〜40問出され、これを毎日解いたのを今も懐かしく思い出します。その他の先生方も親身になって指導してくれましたが、

中でも物理の林勝見先生は冬休みに入試に物理のある生徒を十数人集めて指導してくださいました。寒い中火鉢を焚いて正月前後の丸2週間、休みを殆ど潰して実験三昧の日々を送りました。実はその時実験したものが佐賀高校の入試に出ましても嬉しかったですね。

神田 高校時代はいかがでしたか。

黒川 佐賀高校にはその頃臨時教員養成所が創設されて、後藤君のお兄さんの武雄君が私がい

るからと、そこに入学されて、以後3年間一緒に過ごしました。

神田 大学に慶応の医学部を選ばれたのはどうしてですか。

黒川 母方の一番下の叔父が五

高卒業後東大に落ちて慶応の補欠募集で入学しており、受けてみるように勧められたのです。

大学3年の時親父との話合いの結果、臨床ではなく基礎の方を選ぶことになり、学識の点で尊敬する小林教授のいらつしやる細菌学教室に入りました。ここで私の一生の方向が決まった訳で、今考えてみて悔いはありません。

神田 戦時中はどうしていらしたのですか。

黒川 その頃中国に満鉄と同じような形の華北交通会社という鉄道会社がありました。華北交通社が北京に同じような研究所を開設しようというので研究者として招かれました。満鉄は大

連に伝染病その他の研究やワクチン等の製造を行う衛生研究所を持ち、成果をあげていました。終戦の一年前に軍医として応召し、8月の玉音放送の頃は山東省の山奥にいまして、日本に戻れたのは一年近く後のことでした。



黒川氏のご自宅にて、なごやかに対談

神田 長時間有難うございました。ますますご自愛下さいますとともに、執筆活動のご成功を心よりお祈り致します。

神田 奥様も一緒だったので

奥様 私は、主人の応召の機会に子供たちを連れて引き上げました。実家の父が別府の九大温泉療法研究所の所長をしていたものですから、そこに身を寄せて主人の帰りを待ちました。

後藤 戦後はすぐに国立予防衛生研究所(以下予研と略す)に入られたのですよね。

黒川 予研は1947年に進駐

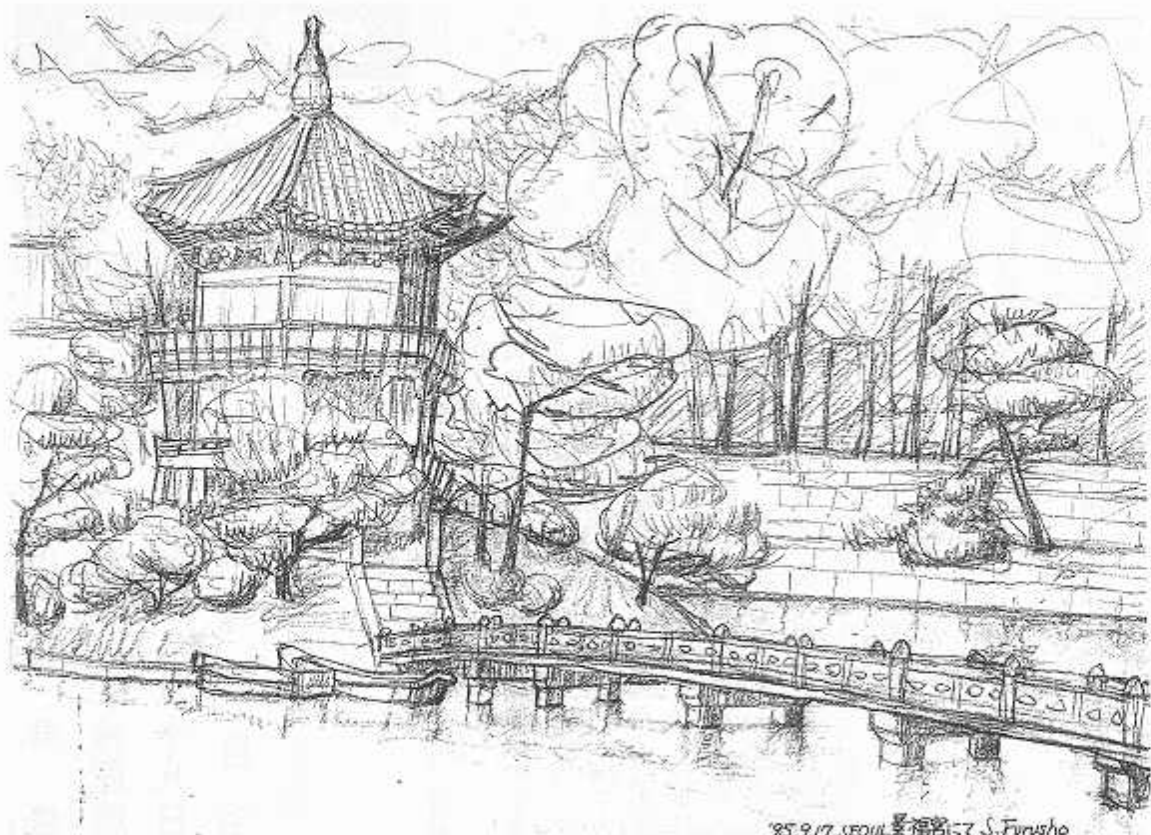
軍の要請で厚生省に設立されましてね、小林教授が初代の所長でした。職員の半分は当時の伝研(東大の伝染病研究所)から部編成のまま、残り半分は外部から入りました。私もその一人で、入所後はジフテリアアトキソイド(ジフテリアのワクチン)の研究と検定の仕事をやっていました。数年後に一級検定部長という職に就きました。この「検定」という名前は欧米にはすでにありましたが、日本では未知の名前でした。要するに生きた微生物が原料で作る製品だから出来不出来にはムラが生じやすく、同じ道程で製造した筈でも出来上がったワクチンの効果に差があったり、副作用にもムラが生じやすいのをできるだけ安定させるのに苦労するわけですね。そのための工夫に研究の苦心がありました。小林教授は非常に嫌われました。私の座右の銘はこれだったと言いますが、上記の検定を間違いないで遂行するにも導きの星でした。

海外だより

韓国ソウルより

古庄 史郎 (昭38年卒)

皆様、オーレガンナムニダ(御無沙汰しました)。九十五年一月 月から社命により韓国に駐在し、までこの「臥牛」の編集委員を ております。



韓国関係の仕事には、かれこれ十年近く関係してまいりましたので、今までの経験と今回の駐在による新しい発見など、その一端を皆様にご報告します。韓国の首都ソウルは、日本の西方朝鮮半島のほぼ真ん中であり、人口約一千万人の大都市です。因みに、成田からは二時間半、大分からは一時間半と大変近く、日本からの旅行者の数は年間一六〇万人を越えダントツの世界一だそうです。

今回は日本語にもっとも近い外国語、韓国語(ハングル)について紹介します。

韓国語は日本語と同じように、韓国固有の言葉と中国から伝わってきた言葉(漢字語)があります。日本語の漢字語に訓読みと音読みがあるのと非常に良く似ています。韓国語の漢字語は例外なく音読みだけです。その読み方(発音)を覚えると日本人にとっては比較的覚えやすい言葉です。但し、発音は大変難しく、それらを正しく出来る日本人はほとんどいないといっています。

NHK韓国語講座のタイトル「アンニョンハシムニカ」は、漢字語の安寧・アンニョン(異常がない)と韓国固有語「ハシムニカ(〜でいらつしやいますか)」とを組み合わせたもので、日本語の「〜機嫌いかがですか」の意味です。文法がほぼ同じ構成で、外国語の苦手な小生でも

一年も居ればなんとか日常生活くらいは出来そうです。

現在我々が使っている日本語の中には、韓国語もしくは韓国語的読み方の言葉が多数あります。「チョンガ」(独身男性)、「ワツジョイ」(来られた・神が来たの意味)、「ハナから」(最初から)ハナは一、二、三の一の意味)これらは、かなり昔に朝鮮半島から伝わって来たものであり、「チャリンコ」(自転車・韓国ではチャジョンコという)、幼児に使う言葉で「ポイしなさい」(韓国語のポイダ・捨て)、「チャンコ料理」(韓国語で雑もの・チャンゴツ)などは、韓国語の発音とその意味が類似しており、近代になって伝わって来たと思われる。

一方、韓国でも多くの日本語が使われています。それが本来、日本語であることを意識しないほど一般的なものとして同化しています。これは、日本統治時代(一九一〇〜一九四五)の影響です。「もんぺ」「上着」「梯子」「弁当」「ぼらし」等など、小生の勤める会社でも若い社員が、「ペントウモゴシツポ」(弁当を食べたい)、「イゴルバラシヘドケンチャナヨ」(これをぼらしてよろしいですか)など、ごく日常的に使っています。

このように言葉一つを取り上げてても日本と韓国は関連深いものが

●お食事
宴会・宿泊に



〒878 大分県竹田市祥田原161
☎(0974) 62-2211(代)

のがあります。顔立ちや体形、食事の嗜好なども大変良く似ていますし、最近では服装、ヘアスタイル、カラオケ、流行歌など、日本とほとんど同時に同じようなものが流行っております。政治家やマスコミが異常なこだわりを持ち続けているにも拘わらず、現実には両国がごく自然に近づいているように見えます。皆様も機会がございましたらば最も近い国「韓国」へ是非おいで下さい。

連絡先

韓一金属工業株式会社
大韓民国京畿道始興市
始華工団3NA-100号
TEL 〇三四五(四九八)〇三二六

燃INNO!!

クラス会・同期会

卒業四十九年にして席を同じくす(第二回)

旧制竹田中学校 第四十五回卒

(昭20年卒)

旧制竹田高等女学校 第三十六回卒

(昭20年卒)

合同クラス会幹事 高橋 幸夫

(昭20年卒)

大東亜戦争の勃発より終戦までの四年間は(昭和十六年入学二十年卒業)勉強と軍事教練や勤労奉仕への明け暮れでした。二年より陸海軍の学校及び航空隊へと生徒の半が志願し学校を後にした。四年になると「学徒動員」として勉学を一時中止し、



中学は福岡県の「日本曹達刈田工場」へ、高女も福岡県の「日本蚕糸宇島工場」へと親元を離れて、国の為に軍需工場で終戦の日まで働き続けた。

あれから半世紀近く、第一回のクラス会を四年前、同じ別府の「亀の井ホテル」で、今回も盛大に平成六年十一月二十七日に開催、関東関西組を含めて総員四十九名の集合、懇親会では五十年ぶりの再会の生徒もいて話は尽きぬ。当時の中学は戦闘帽に変わり、高女はヘチマ襟にモンペの制服、冬の寒い日でも下駄に裸足の通学であった。男女学生の間では、お互いに話をするこたさえ禁じられた時代。その苦難の日々を乗り越えて頑張っていた。

お互いに健康の有難さを確かめ合い、最後に両校の校歌を高らかに斉唱、両校のますますの発展を祈り再度の会を約束して翌朝解散した。

熱海クラス会開催

旧制竹田中学校 第四十八回卒

(昭23年卒)

新制竹田高等学校 第一回卒

(昭24年卒)

飯倉 次男

(昭23年卒)

昭和十八年に旧制竹田中学校に入学、昭和二十三年に旧制中

学最後の卒業生になった者、学生改革により新制高校に編入され、翌二十四年に高校一回生として卒業した者の合同クラス会である。

十一月十二日九時に小田原駅にて、出迎組と竹田方面からの到着組との対面式を行い、観光バスにて一路天下の険箱根路へと向かう。途中、彫刻の森美術館、桃源台、湖尻、箱根関所跡、芦ノ湖、十国峠を散策する。秋の紅葉にはすこし早すぎた、好天にめぐまれすぎた秋霞で富士山を仰ぎ見ることが出来ず残念だった。

予定通り熱海南明ホテルに到着、全員湯の町熱海の温泉で一風呂浴びて、浴衣に着替え、記念写真に収まる。

午後六時より山南喜久雄君の司会によりクラス会開催。総員四十一名。竹田方面代表倉原隆範君の挨拶、関東地区代表栗生利信君の挨拶、自己紹介、物故者への黙禱、つづいて、小崎英達君の音頭で乾杯し懇親の宴に入った。四十五年振りの再会組もあり、たちまち若かりし頃に

戻り竹田弁丸出し、あだ名で呼び合う者、ちゃん付けで肩を叩きあう者、握手をして再会を喜びあう者、参加者による余興皿回し日本舞踊あり、歌あり、詩吟ありと宴も盛り上がり、楽しい一時を過ごした。

来年は六十五歳大きな節目の記念すべき年になるので、次回



は別府でクラス会を開催することを約して解散した。

盛大に開催された二六会全国大会

自 平成六年十一月四日

至 // 十一月六日

於 福岡市

高山 茂美 (昭26年卒)

二六会では地元の大分地区のほか、福岡・熊本地区、関西地区、関東地区などの地区ごとに年一回乃至二回開かれる会合とは別に全国大会を持つてきた。平成三年十一月四日に竹田で全国大会を開いた折に次回は博多が引き受けると申し出を受けた。平成六年十一月五日に福岡市の

アークホテル博多に89名が参集。竹森満國幹事の司会で始まり、代表幹事の山田敦生氏が花柳流名取りの腕前を披露して「黒田節」を舞った。来賓で竹田市出身の福岡市助役加藤三子先輩から御挨拶を頂いた。博多民謡協会の方々により「博多どんたく」が披露され、恩師の羽田野利治先生、赤木邦男先生からお言葉を頂く、物故者の冥福を祈って黙禱した後、新日鐵副社長阿南惟正氏の音頭で乾杯し、懇親会に移行。参加者の中には卒業以来初めて出席した人も数人いて、夜遅く迄昔話に花を咲かせた。翌六日は貸し切りバスで北九州のスペースワールドと福岡ドームを見学した。また、希望者二十四名によるゴルフコンペが九州志摩CC芥屋(四日)、福岡CC和白(五日)の両コースでおこなわれた。



三十年ぶりの再会

目黒 敏子(昭45年卒)

晩秋の一日。それは三十年前にタイムスリップをした様な感激のはじまりでした。

平成六年十一月二十六日。なつかしの母校での卒業三十年の集まりのことです。紅葉も見納めの季節おだやかな土曜日の午後、修道館に三々五々集いくる同級生の顔。いく分髪に白いものがまじって、なかなか魅力的な熟年男子。そして、しとやかな和服もまぎって、思わずふり返って目をとめてしまった、中年の女性陣。この顔ぶれは今日の日を知らぬむきには、何事かと思われたことでしょう。各地に散った級友達。集うこと百三十余名。幹事の努力のたまものと頭の下がる思いがしました。「よくもあつまったりしげし、感激の声が出たものです。三十年の歳月は、その顔に卒業時の初々しさからは遠くなりましたが、落ちつきと、人生酸いも甘いも知る年となり、良き人生を歩んだあかしの様に見えました。家族と共に思い出を作った日々は数多くあっても、自分だけの為に、こんなに夢中になった一日は他に比をみないのではないか。現実の暮らしに戻って振り返ると、生涯の思い出に残る一日であったことは、まぎれもない様に思われます。

ではその一コマづつを追ってみましょう。式典が始まり、校歌を歌い、先に天国に送った友への黙とう、先生方の紹介。校長先生のお話と、順序よく進み、その一コマづつが、三十年前の体育館の数々の行事とダブリ、あれこれと思い出し、胸が一杯になり、青春の日々を思いおこしているうちに、ビデオの記念品の贈呈で式の終了となりました。ひき続き、ホテル岩城屋に会場を移しての懇親会。いやが上にも話に花が咲き、あちこちで少女のごとき歓声があがり、「ああ、帰ってきてよかったな。」と、「参加してよかったな。」としみじみ思いました。

三次会はクラス別にわかれて竹田の町へと繰り出し、幹事の努力ここに極まれりという段取りのよさに感心しながら、こころよい酔いに、三、四、五次会と夜のふけるのがうその様でした。きつと皆、満足感一杯の竹田の夜だった事でしょう。あけて、翌朝、参加者十五名、眠い目をこすりつつ、「奥豊後めぐり」に出発です。あらためて、回ってみると、竹田は観光に力を入れていたことが、今更の様によくわかり、努力されているのだなあと思いました。大変によい企画であったと思います。ワイワイガヤガヤの遠足でした。帰京して、いつもの様に暮らす一日が始まり胸ときめいてすごしたあの日は何だったのかと

問うと、故郷へのつながりが年を経るごとに希薄になっていく、ひたすらなつかしく、生を得てから十八年のぎょうしゆく

した、思い出を求めている自分に気付くのです。ふるさとにはありがたきかな。古き友人たちまたしかり、再会の日まで。

会員へのお知らせ

催物

◎竹田会

平成7年11月10日(金)

午後6時

・サンプラザ 鳳凰の間

(13階)

◎第十回関東同窓会総会

平成8年6月15日(出)

午前11時

・京王プラザホテルにて

「あかひき早く」の刊行について

世話人 得丸 大典 (昭20年卒)

竹田中学校四十五回生は、敗戦五十年を期して、上記(第四号)を発行いたしました。在学中は教練と、生徒動員が主で、まとまった教科書教育はなされませんでした。特集として

編集後記

訃報

謹んでお知らせ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。
平成7年7月2日 没
藤沢 博吉(昭25年卒)

一、全校生徒から怖がられていた教練の名物教師足立中尉の生涯をまとめました。また、歴代の配属各校の一覽表を作成してあります。
二、生徒動員の実態と、三校生徒座談会等
三、列車通学の風景の写真集
また、思出深い写真がお目にかかれるはずです。
ご希望される方は、左記にご連絡ください。

記

一、申込先
東京都中央区新川二二二一
いづみハイツ茅場町一〇一一
TEL〇三三三五五一―一八九六
得丸 大典

二、代金

一冊一〇、〇〇〇円
永久保存用として、箱入で上質の用紙を使用しています。少々お高くなっています。少々お高くなっています。

お友達にも、お知らせください。皆様の健康と、ご活躍を、お祈りいたします。

この夏は異常な猛暑の連日でありました。戦後五〇年今後の在り方については幾多の問題が提起されており、身近な景気の回復は容易にその改善の兆しすらみえて来ません。さりながらともかく「臥牛十二号」をお届け致すことができました。構成メンバーも大幅に入れ替わっておりますが新委員全員が皆々様に楽しく関心をもって気楽に読んで戴ける会報の編集に努める所存です。私共委員の大半が不慣れにつき、各紙面について数々のご叱責・ご批判を戴けますれば一同誠に幸甚に存じます。

※「投稿」をお待ちしています!!

・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

・連絡先

〒279 千葉県浦安市今川2-10-31
神田 清 宛(広報委員長)
☎0473-5419456